

「900kgのふっくりんこを収穫」 小雨の中、支援米の稲刈りに奮闘

「食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議（大岩伸一議長）」は9月26日（土）、食糧難に苦しむ地域に送る「アジア・アフリカ支援米」の収穫作業を北斗市本町の水田で行いました。

あいにくの雨の中、約40名の親子連れが参加し、成長した稲を手作業で刈り取りました。

冒頭、大岩議長から飢餓撲滅のための取り組みの意義を説明のうえ、悪天候にもかかわらず集まった参加者に感謝の意を表しました。

地元農家の長尾典彰さんが営む「リッキーファーム」の水田の一角を借り、5月末に作付けした苗が約4ヶ月で大きく成長していました。

佐藤事務局次長（全農林委員長）から注意事項や作業の流れを実演で説明し、刈り取り作業を開始。

中には小学生が鎌を持ち、刈った稲を親が束ねる姿も見られました。馴れない鎌の扱いに怪我也心配されましたが、一人の怪我人もなく無事、900kgの「ふっくりんこ」を収穫することができました。

民主党の逢坂誠二衆院議員も駆け付け、「食べ物や自然を考えるきっかけにして欲しい」と参加者を激励しました。

収穫した米は、一度、他地域の支援米と共に札幌に集められ、その後、道南の支援米はアフリカのマリ共和国に送られています。

